

十月一日以後は、かくの如き拂込からの入金は國庫ではなく *Caize d'Amortissement* に歸し、拂戻しも同様にそれによつて行はれたのであつた。それにも拘はらず、一九二六年十二月以後は短期の國防證券がすべて漸次になくなつていつたために、諸銀行及び其他のものによる遊資の國庫への預金と再び必要となつた際におけるその引出とによつて、前の場合ほど密接ではないが、しかし同じ様な關係が築き上げられたのである。^(註五)

(註五) この機構は、成程、一九二二年に國庫が預金の受入を開始してからは全期間を通じて作用した。併し乍ら、それは短期國防證券の發行禁止後に始めて重要となつたのであつた。

従つて、こゝで問題としてゐる期間を通じて、フランス銀行の國家貸上金の系列の運動はそれが政府の購入の變化を反映したと殆んど同じやうに精確に事業會社及び私個人の支出額の量の變化を反映したのであつた。従つて、各種の型の借入がインフレーション過程を促進乃至は阻止せしめる上にもつてゐる相對的の重要さの指標は他のどこかに求められねばならないのである。

次いで物價、流通高、及び爲替相場の運動の研究がなされたのであつた。戦前の金屬本位制の下に於いてはこの三つの現象の運動の間には密接な而して容易にはあるが色々に説明される關係があつた。實際、この關係は非常に密接であつたのであつて、あるものに可成りの變化が生ずれば必ずや他のものにある種の擾亂が生じねばやまないのである。云はゞ金屬本位制を維持する方策によつて相結合せしめられてゐたので、それらの相對的の運動は實際極めて僅かであつた。併し乍ら、金屬本位制が部分的に破綻するにつれて、またある種の國々ではこれが不換紙

幣本位制にとつて代はられるにつれて、遙かにより大なる運動の自由が結果したのである。これらの重要な量のそれぞれの運動は、實際、インフレーションの度合の個々の尺度と見做すことができるであらう、でそれらの相對的の運動が更に興味を惹くのである。

ドル爲替相場と卸賣物價との運動には、非常に密接な類似が戦後の全期間中過く持續するのが見出された。その上これらの運動の變動は概して同時的であるやうに思はれた。併し、國內品の物價とドル爲替相場の運動を慎重に研究してみると、一九一九—一九二二年の間は、物價が略々一月だけ爲替相場に先行する傾向が僅かにみられたのであつた。併し乍ら、この結果は明瞭なものではなかつた。同時的諸項を比較してみてもある月の物價と翌月の爲替相場とが比較された時に見出されたと殆んど同じ高度の相似が見出されたのであつた。これに反して、一九二三—一九二六年の期間については、より明確な結果が得られた。相關方法は國內品物價がドル爲替相場に對して平均略々一月の明かな遅れをもつことを示した。併し乍ら、一點一點の比較は、この遅れが時には一月、時には二月、また時には皆無乃至一月以下であることを明かにした。爲替相場と輸入品物價と卸賣物價一般との相對的の運動に關して云へば、物價の爲替に對する遅れ乃至は爲替の物價に對する遅れは相關方法を用ひては發見できなかつたけれども、一點一點の比較は兩價格系列の運動が爲替相場のそれに僅かに遅れる一般的傾向を示すやうに思はれた。流通高の運動と比較した卸賣物價の運動に就て云へば、得られた結果は遙かにより明確であつて、問題なく確認されるやうに思はれるのである。一九一四年十二月乃至一九二六年十二月の全期間の間、明かに流通高は物價に對

して變動的ではあるが、明確な遅れをもつてゐた。併し乍ら、一九二四年十二月乃至一九二六年十二月の急速なインフレーションの最終期間には、この遅れは殆んど完全に消失したやうに思はれた。これに反して、一九一四年十二月乃至一九一八年十二月の戦時期間中は、この遅れは、可變的ではあつたけれども、明かに平均略々五ヶ月であつた。更に一九二〇年と一九二一年の急速な物價下落の期間には平均的遅れは六ヶ月或は七ヶ月に延長しへもした。併し乍ら、これにつゞく一九二二—一九二四年の物價騰貴の期間には、この遅れは一月或は二ヶ月に縮少し、更に急速なインフレーションの最終期間には、上に述べたやうに、消失してしまつたか或はさうでなければ、相關方法によつては發見できないほど短くなつた。

諸系列の運動の間に發見されたこれらの遅れを説明することはそれ自身に於いても貨幣理論の見地からしても重要であるのみならず、更にそれらはインフレーション過程それ自身の背後の影響に關して多くの暗示を與へるやうにも思はれるのである。

物價が爲替相場に對して僅かに遅れるといふ一般的傾向は、次のことを意味するやうに思はれるのである、即ちこゝで問題とされてゐる期間の大部分においては、フランの爲替相場の變動はフランスに於ける國內物價の運動とは直接關係のない影響に左右されてゐたといふこと、その反對に、爲替相場の變化が物價をフランの新國際價值に適應せしめてゐたといふことである。この見解は遅れが國內品價格のみ明かであつて、輸入品或は商品一般の價格には明瞭に現はれなかつたといふ事實によつて一層確認されるのである。少くとも一九二三年の中ば以後か

ら一九二六年の中ばまでは、諸外國に於ける「現物」フランの賣却と、この期間の後半に於ける外國通貨のフランに於ける購入とが、フランの交換價值を漸次的に減價せしめてゐたやうに思はれる。その減價のかぎり、外國の購買者達がフランスで購入する利益と共にフランスの賣却者達が彼等の價格を引上げる誘因が附加されるに至つた。明かにフランの減價は輸入品價格に殆んど即時的に影響すべきものであり、またフランの減價とそれに基づく輸出の増加とは、國內品價格には幾分か迅速さに於いて劣るけれども、輸出品の價格には殆んど等しく迅速に作用すべきものである。

(註六) 「現物」相場に及ぼす即時的影響の説明については、第六章、五一—一五二頁を参照。

これに反して、物價が概して爲替相場に先行してゐるやうに思はれた一九一九年から一九二二年までの期間には、フランの爲替相場を減價せしめるかくの如き異常な原因がなかつたといふことが可成りに明かである。この三ヶ年間は爲替相場は、人爲的爲替統制が一九一九年早々に撤廢されてからは、現在の物價水準に正常にまた迅速に適應してゐるやうに思はれた。

(註七) 爲替相場と物價との相互調整の一般的議論については、讀者は第六章、一一四—一一六頁を参照されたい。

流通高の物價に對する長期の遅れは、遙かにより根本的な説明を——事實上、貨幣物價間の因果關係の基礎そのものに觸れる説明を——示唆してゐるのである。實際、考察されたこの遅れは非常に重要であつたがために、多くの時間と勞力を費して、ドイツのインフレーション時代の統計が蒐集且つ分析されたのであつた。この分析の結果

は、爲替相場と物價との間の遅れについても物價と流通高との間の遅れについても、フランスにおけるものと質的には全く相似であつたので（尤も遅れの長さは可成り異つてゐたが）基礎的事實については最早何等の合理的な疑問も存しないやうに思はれた。物價が爲替相場に對して通常僅かに遅れるといふことの説明は、フランスでの同じ傾向に對して與へられた説明と明かに同一であつた。併し、最も重要なことであるが、流通高の物價に對する長期且つ變動的の遅れは——フランスの資料に於けると同じく——検討されたインフレーション過程の全段階にみられたのであつた、但し最も急速なインフレーションの最終段階は——フランスの資料の場合にもさうであつたが——その例外をなした。物價と流通高の双方の日々の増加が殆んど天文的の大いさに達したドイツの最後の數ヶ月には、流通高が物價に先行したかと思はれるある徴候があつた。物價に對する流通高の遅れについての次の説明は、當時の經濟狀態の詳細な研究がなくても、ドイツのインフレーションにも適用されるやうに思はれるのである。實際、この説明にしてなされる時には、それが現存の信用・通貨制度の下にある現代のすべての工業國に遍く適用されるといふことは殆んど確實であることが明かになるのである。

大多數の財貨は支拂に先立つて購入されるのである。政府の購入についてもこのことは殆んど常に眞實である。こゝで問題とされてゐる時期を通じて、多數の財貨は合衆國に於けると同じくフランスに於いてもそれらが生産される遙か以前に、また多くの場合には、それらの製造に用ひらるべき道具或は粗生原料品が存在する以前にさへも購入せられたのであつた。支拂は概して購入された財貨の引渡が終つてから始めて要求せられた。従つて、明かに

支拂手段は支拂期が到來するまでは全く必要とされなかつたのである。而して事業會社及び個人の購入の場合と同じく政府の購入の場合に於ても、支拂手段はこれを用ひる時が近づくまでは求められなかつた。これに反して、物價への影響はその物價で行はれた財貨の購入と概して符合してゐた。財貨の購入の時にこそ需要の影響は現はれるのであり、また現存の供給との關聯に於ける需要こそすべての財貨の賣却價格を決定するのである。そこで、通貨の高の變化がそれでもつて支拂はれる財貨の價格の變化に追隨すべきであるといふことは全く當然であるのみならず、更に我が信用機關が現在のやうに機能するかぎりには殆んど不可避的でもあるやうに思はれるのである。

併し乍ら、上に述べた検討はインフレーションの過程自身の部分的説明を與へるものにすぎないのである。極めて重要なことは、問題とされた期間中にこの過程が経過した様々の局面に於いてこの過程を促進或は阻止せしめる上に、政府の購入が事業上の購入に比較してどのやうな異つた影響をもつたかといふの問題である。この問題に満足すべき解答を見出さうとして數多の統計的系列が検討され、また各種の分析方法が利用されたのであつた。^(註八)このやうにしてある種の重要な結論に到達したのであつた。

(註八) 讀者は別して第八、第九、第十一、及び第十二章を参照されたい。

戦時と戦後とを併せて考察すれば、そのうちには二つの明確なインフレーションの時期と二つの等しく明確なデフレーションの時期があつたと云ふことができるであらう。このインフレーションの時期は戦争の勃發から一九二〇年の始頃まで及び一九二二年の終頃から一九二六年七月までであり、またデフレーションのそれは一九二〇

年の始頃から一九二二年の始頃まで及び一九二六年八月から一九二七年の始頃までであつた。

戦時中及び一九二〇年の年初までは、政府の繼續的購入はフランス銀行からの貸上金の形で確保された資金を以つて行はれ、その額は金融状態を終始著しく緩慢ならしめておくに足るほど多額であつたといふことは充分に證明されるのである。物價が著しく急速に騰貴し事業活動が旺盛であつた一九一九年の終頃でさへも、佛銀の國家貸上金の繼續的增加が非常に著しかったために、金利はより緩みさへもしたのでありまた信用は明かにより潤澤となつたのであつた。短期利子率が騰貴の傾向を示したのは一九二〇年の年初以後のことであつた。更に、事業の借入金に佛銀の國家貸上金の増大を餘儀ならしめてゐたといふよりも寧ろ佛銀からの政府の借入が事業に資金を提供してゐたといふことは、それと同時に短期國庫手形の償還以上に出づる拂込の著しい超過があつたことによつて明かにされたのであつた。若しも事業が諸銀行に經常的に流れてゆくよりもより多くの資金を必要としたとすれば、大多數の銀行の第二次準備金のかくも多くの部分を占めてゐる諸證券の償還の巨額の要求があつたであらう。

一九二二年の終頃に始まり一九二六年七月の深刻な恐慌まで持續した第二のインフレーション時期には、この二つの因子の相對的重要さは著しく變つたやうに思はれるのである。その初めの段階に於いては兎も角も膨脹は政府費消よりも寧ろ事業上の費消によつて支配されたといふこと、及び事業の膨脹は膨脹で、諸銀行の保有にかゝる短期國庫手形の益々多くが満期に支拂はれることを諸銀行側が要求したために、引續き政府の財政困難を増加せしめつゝあつたといふことは殆んど疑ひがないのである。この困難は佛銀の既存の國家貸上金の現在高と貸上高の法定

最大限との差が僅かであつたために、大いに加重せられたのであつた。實際、この困難は非常に鋭化したために、一九二三年の年末までには——これは可成り確實なことであるが——政府は商業銀行やその他の銀行から直接に借入れると共に、フランス銀行と協定してその貸付諸銀行に對して等額の手形を再割引せしめるといふ後に甚しく非難された政策に既に依頼せざるを得なくなつてゐたのであつた。併し乍ら、一九二五年四月以後はフランス銀行の國家への政府用の貸上金の急激な膨脹は新資金の諸銀行への流入を非常に増加せしめたために利率は間もなく著しく低落し始めた、そしてこの年に佛銀の國家貸上金の形態で放出された資金の大過剰が充分に利用されるやうに思はれたのは一九二六年七月の恐慌が接近してからのことであつた。

一九二〇年の暮から、一九二一年を通じ、一九二二年の第三四半期に至る不況期並びに一九二六年七月の恐慌に伴ふ不況期に於ては、事業による資金の解放は當時の緩慢な一般的金融状態と必然的に多くの關聯をもつた。デインフレーションの過程を開始し維持した力が何であるかは、併し乍ら、それほど容易には決定されないのである。一九二〇年の略々同じ時にイギリス及合衆國並びに其他のある國々に於いても同様の恐慌と同様のデインフレーションの開始とがみられたのであつた。アングロサクソン諸國でさへも、僅か數ヶ月の経過中に急激な物價騰貴を等しく急激な物價下落に、事業繁榮を事業不況に、轉化せしめた諸原因については一般的に意見の一致があるわけでは決してないのである。かくの如き事情の下に於いて乏しいフランスの統計的資料を利用してフランスの同様の出來事の因果的説明を企てることは實際輕率なことであらう。一九二六年のデインフレーションを發足せしめた支配的影響は

何であるかと云ふことに就いては、決定は幾分かより明瞭であるやうに思はれるのである。フランスの投資家による様々の種類の外國投資の巨額の保有と、世界の種々の外國爲替中心地に於けるフランの巨額の短期空賣りとが現存してゐたのであるから、フランス爲替の急速な回復を發足せしめるために資本輸出者と投機業者とを恐怖に陥らす何等かの動機があれば足りたのであつた。新ポアンカレ政府に對する豫想外の信頼はこの動機を提供したやうに思はれる。その結果としてのフランの急速な回復は、この過程を維持し強化せしめるに與つて力ある數多の影響力をして直ちに活動の緒につかした。他の國々に於けるフランのより高い價值は、フランスに於ける外國の購入を不振ならしめるに與つて力あつたと共に、他方ではフランスに於ける諸外國通貨のより低い價值は、海外に於けるフランスの購買を刺戟するに與つて力あつたのであつた。併しフランスの輸入業者や、輸出業者や、其の他の業者が同様に抱くに至つた躊躇はその影響に於いて直接的であり、また疑ひもなく遙かにより重要であつた。事業は不振になり始めた、その不振と共に物價の切下げが行はれた、そして取引數量の減少と結合した物價の切下げと共に、銀行信用の漸次的收縮が、遊休資金の諸銀行への漸次的蓄積と短期國庫證券への拂込の照應的增加とが、國庫に於ける預金の漸次的増大が、更に佛銀の國家貸上金とフランス銀行の銀行券流通高との着實な減少がみられたのであつた。これらすべての出來事はフランのより以上の騰貴を刺戟した。一度び活動を開始した運動はその進行と共に累増して運動量を獲得し始めたのであつた。

一九二六年十二月までにはフランス爲替の回復は非常に顯著且つ非常に急速となつてゐたために、より以上の危

險な騰貴を阻止するためにある行動が必要と考へられたのであつた。従つて、より以前の授權の下に行動して、フランス銀行は諸外國通貨の購買者として外國爲替市場に登場したのであつた。所要の結果は直ちに達成されてフランの價值はその後はポンドに對して略々一二四に保たれたのみならず、更にフランス銀行は新たな減價の、如何に強烈であるにせよ、一時的の傾向からはこれを守るに足る額の外國勘定の蓄積をもしたのであつた。

價值あるある種の理論的結論が現はれるのである。流通高の變化は物價水準の變化に對して殆んど常に遅れをもつてゐるといふこと及び國內品物價の運動はドル爲替相場の運動に對して通常遅れをもつてゐるといふこと以外に、これらの相異なる因子間の適應の速度の變化が觀察された。特に、流通高が物價に先行するやうに思はれた唯一つの疑問的な場合並びに物價が爲替相場に先行したことの全く確實な二三の場合に於ては、いづれの場合にもこの適應が著しく急速であつたことが分つた。上に指摘されたより通常の先行では適應は概して遙かにより緩慢であつた。特に流通高と物價との間においてはさうであつた——しかしインフレーション過程それ自身が運動量を獲得するにつれてより急速になる傾向があつた。

交換方程式に關して云へば、一つの附隨的ではあるが重要な結果が現はれたのであつた。購買と支拂との間の長期且つ變動的の遅れと一時期から他時期に繰越されたこれに基く大いに變動的の未済契約高とのために、方程式が絶えず均衡を失はしめられる機會が多分にあるにも拘はらず、かくの如き均衡の破綻から生ずる重大な歪みの證據は殆んどなかつた。フランスに於ける現金支拂の非常に鞏固な慣習が、恐らくはこの擾亂の勢いことを説明するの

である。アングロ・サクソン系の國々のいづれかに於ける同様の擾亂状態の下に於いては、この歪みは遙かにより大きいであらうといふことは確かに豫想することができるであらう。

最後に、實際非常に明かに確認されたことは、物價騰貴の下に於いても物價下落の下に於けると同じく流通貨幣量の變化が物價の變化に比例的であるよりも遙かに少なかったといふことと、そして物價の運動が急速であればあるほど貨幣流通高に對する物價の正常的比率の歪みが益々大きかつたといふことである。

一九二六年七月以後のフランスの金融情勢の非常な改善は眞實であつて、それが持續すべからざる明白な理由は存しないのである。實際、豫算が均衡を保ち得るといふことと國際貸借を逆轉せしめるに足る多額の海外支拂が必要とされさうでないといふことが明かとなるや否や、金本位制が略々フランの現在價値で再建さるべからざる理由はなくなるのである。金融上の觀點からすれば、この仕事は一フラン四セントとするよりも寧ろ三セントを以つてする方が遙かにより容易であつたであらうが、フランス銀行に於ける外國爲替及金の保有の大蓄積はフランの一時であつて餘り執拗でない減價傾向を充分に喰止めるのである。併し乍ら、著しく多額の支拂が外國の債權者によつて要求されて受取られるとすれば、或はフランス政府が一九二六年七月前の戰後期間の大部分の著しい特徴をなした杜撰な金融政策に再び依頼するとすれば、金本位制は極く最近統制下におかれたインフレーションの有力な諸力に對する微弱且つ無効な障壁にすぎないものであることが分るであらう。

忘れられてはならないことは、インフレーション過程の背後に於ける本源的諸力が活動するに至つたのは巨額の

公債の累積との關係に於いてであつたといふことである。その上、絶えず脅威を與へてゐた流動的債務負擔の大部分は將來に繰り延べられたが、國債總額には全く問題とするに足らない減少があつたにすぎないのである。而して、この總額が現在と同じく大である間は、政府の所得の非常に多くの部分がこれに伴ふ利子負擔を賄ふために要求されるために、支出の豫想外の増加乃至は収入の著しい減少は再びインフレーション的金融政策への依頼を必要ならしめるほど豫算の均衡を擾亂するかも知れないのである。

常に背後にはフランスが今日まで直面することを要求されなかつた別のインフレーション的勢力のあることも、また、銘記されなければならぬ。フランスの政治家は別してアメリカの聴衆に向つては——反對のことを云ふにも拘はらず——ドイツのインフレーションの大きな影響の一つであつた著しく困難な外債支拂問題は、未だ實際にはフランスに現はれてゐないのである。この問題の出現に對してどの點まで安全かといふことの豫測については、讀者は Pierre Meyrial が彼の *Créances et Dettes internationales (Balance des Comptes)* で、また Harold G. Milton 及び Cleona Lewis が *The French Debt Problem* でなした優れただが稍々異つた計算を参照されたい。その壓倒的な重要さについては、經常的な受取勘定を著しく超過する海外支拂が要求され、そしてまたフランス政府によつて實際に企圖されるとすれば、疑問の餘地はないのである。提案されてゐる金本位制への復歸もそれ自身ではその効果に對する感情的抵抗以上のものは提供しないであらう。なるほど、現在におけるフランス銀行の多額の金及外國爲替の保有は、フランのより以上の減價の一次的傾向を——それが輸入超過から生ずるにせよ、或は豫算

の不足から生ずるにせよ、——阻止するには十分である。事實、これ等の保有は非常に巨額であるから、かりにそれ等をこの目的のために用いることができるとすれば、それらの合計はイギリス及びアメリカの兩政府に對する債務總額の略々半ばは直ちに果すに足りるのである。併し乍ら、金準備は感情的なだがそれにも拘はらず重要な理由のために維持される必要があり、そして外國爲替基金が一方の影響の結果を防ぐのに用ひられるかぎりには、それは他方のものに對する保障としては役立たなくなるのである。併し乍ら、豫算の均衡が維持されれば、それは多分に發生の虞れある不利な國際收支の攪亂的影響を全く完全に防ぐことができるやうに思はれるであらう。

(註九) Pierre Meyrial, *Créances et Dettes internationales (Balance des Comptes)* (Paris, Librairie Dalloz, 1926); Harold G. Moulton and Cleona Lewis, *The French Debt Problem* (New York, The Macmillan Company, 1925)

ある種の誤れる警戒信號に對して更に一言の戒告の言葉をつけ加へておいてもよいであらう。フランスの公衆は、大抵の事情の下に於いては危険を豫示するが現在(一九二八年一月)の異常な状態の下では事業繁榮の復歸の殆んど不可避的な景物であることが分るやうなある種の事柄の發生を見ることを覺悟してゐなければならぬ。

事業活動の増大と共に、別してそれが物價騰貴によつて伴はれたとすれば、銀行信用の可成りの膨脹を豫想することができらるであらう。諸銀行は、彼等の遊金と海外に投資された資金とが枯渇するや否や、國庫に於ける彼等の預金の引出を止むなくされるであらう、従つて國庫としては、彼等の要求に應ずるために、フランス銀行からの借入金を増加せしめざるを得ないであらう。かくて、最近かくも多くの面倒を惹き起した、恐れられてゐる佛銀の國

家賃上金が、再び増加すると考へることができるであらう。また、國家賃上金のかくの如き増大と共に、これ亦傳統的な危険信號であるところの銀行券流通高の稍々照應的の増加が、殆んど不可避的に生じてあらう。事業活動が非常に大きくなつて價格が可成り騰貴するとすれば、賃上金の法定限度の引上げの必要もまた生じないとは云はれないではないのである——尤もこのことは若しもフランス銀行に於ける *Caisse d'Amortissement* の多額の預金が一時國庫に預金され得るとすれば避けることはできるであらうが。

それに拘はらず、若しも單に事業膨脹の結果にすぎないとすれば、すべてのこれらの一見危険な出來事の發生は常に困難を豫告するものでないのみならず、更に全國の經濟生活の一般的改善を指示するものでさへありうるであらう。併し乍ら、最も慎重に注目されねばならない重要な危険信號が一つある。かくの如き事業回復の期間中に價格水準が可成りの期間に互つて絶えず騰貴するとすれば、災害は忽ちにして再現するであらう。海外に於ける購買の増加が、フランスに於ける外國の購買の減少と相俟つて、外國爲替準備を漸次的に減少せしめる一方、かくの如き騰貴は歲入を照應的に増加せしめることなしに政府支出を同じく殆んど不可避に増加せしめ、實際に危険な國庫の不足が再び現はれるであらう。

表及圖表索引

表

第一表	歳入・歳出及不足金	二
第二表	對内國債	三
第三表	對外國債	三
第四表	不足金及政府借入金	七
第五表	流通高、物價、及爲替	三
第六表	佛銀の國家貸上金	五
第七表	フランス中央統計局物價指數	七
第八表	パリにおけるドル爲替	九
第九表	佛銀券流通高	三
第十表	佛銀の國家貸上金	七

表及び圖表索引

第十一表 佛銀券流通高……………八九

第十二表 「四大」商業銀行のポトフォリオ……………九七

第十三表 「四大」商業銀行のポトフォリオ……………九七

第十四表 「四大」商業銀行の一覽拂預金……………一〇一

第十五表 「四大」商業銀行の一覽拂預金……………一〇三

第十六表 佛銀券流通高……………一〇五

第十七表 パリにおけるドル爲替……………一〇三

第十八表 フランス中央統計局卸賣物價指數……………一〇五

第十九表 フランス中央統計局輸入品物價指數……………一〇七

第二十表 フランス中央統計局國內品物價指數……………一〇八

第二十一表 フランス中央統計局國內品物價指數……………一〇九

第二十二表 フランス中央統計局國內品物價指數……………一一〇

第二十三表 フランス中央統計局卸賣物價指數……………一一三

第二十四表 フランス中央統計局卸賣物價指數……………一一五

第二十五表 佛銀券流通高……………一二〇

第二十六表 フランス中央統計局卸賣物價指數……………一二二

第二十七表 佛銀券流通高……………一二四

第二十八表 フランス中央統計局卸賣物價指數……………一二五

第二十九表 佛銀券流通高……………一二六

第三十表 パリ手形交換所交換高……………一二九

第三十一表 パリにおけるドル爲替……………一三〇

第三十二表 フランス國內に於けるフランに比してドルの購賣力の損得百分比……………一三三

第三十三表 ベルリンにおけるドル爲替……………一三六

第三十四表 ドイツ國統計局卸賣物價指數……………一三九

第三十五表 ドイツにおける總流通高……………一四〇

第三十六表 ベルリンにおけるドル爲替……………一四二

第三十七表 ドイツ國統計局卸賣物價指數……………一四三

第三十八表 ベルリンに於けるドル爲替……………一四六

第三十九表 ドイツ國統計局卸賣物價指數……………一四七

第四十表 ドイツ國統計局卸賣物價指數……………一五〇

第四十一表	ドイツにおける總流通高	一〇
第四十二表	ドイツにおける總流通高	一一
第四十三表	政府借入金總額とフランス銀行からの貸上金	一七
第四十四表	フランス銀行における國庫の預金	一八
第四十五表	フランス銀行における國庫の預金	一八
第四十六表	フランス銀行の非政府預金	一九
第四十七表	フランス銀行に於ける Caisse d'Amortissement の預金	一九
第四十八表	フランス銀行に於ける非政府貸付	一九
第四十九表	生産數量、フランス中央統計局の月別指數	二〇
第五十表	生産數量、フランス中央統計局の月別指數	二〇
第五十一表	積載貨車數	二〇
第五十二表	積載貨車數	二〇
第五十三表	フランス銀行の貸付利率	二〇
第五十四表	フランス銀行の雜資産	二一
第五十五表	フランス銀行の雜資産	二一

第五十六表	フランス銀行による金、銀及外國爲替の購入	二二
第五十七表	フランス銀行の雜負債	二二
第五十八表	フランス銀行の雜負債	二二
第五十九表	フランス諸銀行の外國代理店勘定	二二
第六十表	國庫における預金	二三
第六十一表	フランス銀行の國家貸上金	二三
第六十二表	フランス銀行の銀行券流通高	二三
第六十三表	フランス銀行の利益金及支出金	二三
第六十四表	フランス銀行の純利益金及配當金	二三
第六十五表	フランス銀行の純利益金及配當金	二三
第六十六表	「四大」銀行の資本金と準備金	二四
第六十七表	「四大」銀行によつて株主に支拂はれた配當金	二四
第六十八表	「四大」銀行の現金保有高	二四
第六十九表	パリに於ける商業手形割引利率	二五
第七十表	三商業銀行の reports 及び avances	二五

第七十一表 reportsの利率..... 二六〇

第七十二表 國防證券と短期國庫手形の償還以上に出づる發行超過..... 二六三

第七十三表 banque d'affaires の資本金、準備金及び配當金..... 二七七

第七十四表 banque d'affaires のポートフォリオ預金及び取引銀行勘定..... 二七九

第七十五表 債券發行..... 二九〇

第七十六表 株式發行..... 二九七

第七十七表 長期利子率..... 二九八

第七十八表 フランス中央統計局の卸賣物價指數..... 二九三

第七十九表 フランス中央統計局の有價證券價格指數—不確定利附フランス有價證券相場..... 二九七

第八十表 卸賣物價と比較せるフランス中央統計局の有價證券價格指數..... 三〇〇

第八十一表 拂戻以上に出づる預金超過 Caisse d'épargne ordinaires..... 三〇四

第八十二表 拂戻以上に出づる預金超過 Caisse nationale d'épargne..... 三〇五

第八十三表 フランス貯蓄銀行における拂戻以上に出づる預金超過..... 三〇七

第八十四表 フランス貯蓄銀行における拂戻以上に出づる預金超過..... 三〇八

第八十五表 M..... 三〇七

第八十六表 M'..... 三〇八

第八十七表 V'..... 三〇九

第八十八表 國防證券及び其他の短期國庫證券の發行の對償還年次超過額..... 三一〇

第八十九表 M'M..... 三〇六

第九十表 C..... 三〇一

第九十一表 V'C..... 三〇四

第九十二表 K..... 三〇七

第九十三表 K'..... 三〇九

圖表

第一圖表 國債流通高爲替及物價..... 七一〇

第二圖表 國家貸上金流通高爲替及物價..... 七一三

第三圖表 佛銀國家貸上金高..... 七一五

第四圖表 國家貸上金及流通高..... 七一八

第五圖表 貸上金及流通高(循環)..... 七二〇

表及び圖表索引

第六圖表	流通高及「四大」商業銀行ポートフォリオ	一〇五
第七圖表	流通高「四大」商業銀行ポートフォリオ及預金	一〇六
第八圖表	國家貸上金流通高「四大」商業銀行のポートフォリオ及預金	一〇七
第九圖表	卸賣物價及爲替	一〇〇
第十圖表	卸賣物價及爲替(循環)	一〇三
第十一圖表	輸入品物價及爲替	一〇六
第十二圖表	輸入品物價及爲替(循環)	一〇七
第十三圖表	國內品物價及爲替	一〇九
第十四圖表	國內品物價及爲替(循環)	一一〇
第十五圖表	卸賣物價及流通高	一一一
第十六圖表	卸賣物價及流通高(循環)	一一二
第十七圖表	卸賣物價及流通高(循環)	一一三
第十八圖表	卸賣物價及流通高(循環)	一一四
第十九圖表	卸賣物價及流通高(循環)	一一四
第二十圖表	パリ手形交換所交換高	一一五

第二十一圖表	弗爲替の一次導函數及佛國內に於けるフランに比しての ドルの購買力の百分比損得	一一六
第二十二圖表	ドイツに於ける爲替物價及流通高	一一六
第二十三圖表	ドイツに於ける爲替及物價(循環)	一一七
第二十四圖表	ドイツに於ける爲替及物價(循環)	一一七
第二十五圖表	ドイツに於ける物價及流通高(循環)	一一七
第二十六圖表	ドイツにおける物價及流通高	一一八
第二十七圖表	佛銀における國庫預金	一一八
第二十八圖表	佛銀における國庫預金	一一九
第二十九圖表	佛銀の非政府預金	一二〇
第三十圖表	佛銀の非政府貸付	一二〇
第三十一圖表	生産指數	一二〇
第三十二圖表	生産指數(循環)	一二〇
第三十三圖表	積載貨車	一二〇
第三十四圖表	積載貨車(循環)	一二〇

表及び圖表索引

第三十五圖表	佛銀の雜資産	109
第三十六圖表	佛銀の雜資産	110
第三十七圖表	佛銀の雜負債	113
第三十八圖表	佛銀の雜負債	114
第三十九圖表	國家貸上金及非政府貸付	111
第四十圖表	國家貸上金及預金高(循環)	117
第四十一圖表	「四大」銀行のポートフォリオと預金	114
第四十二圖表	「四大」銀行の現金保有高	113
第四十三圖表	短期利子率取引所關係	115
第四十四圖表	債券發行—I	116
第四十五圖表	債券發行—II	116
第四十六圖表	債券發行—III	116
第四十七圖表	株式發行—名目價值	116
第四十八圖表	長期利子率	119
第四十九圖表	長期利子率及卸賣物價指數の導函數	119

第五十圖表	長期利子率及爲替相場の導函數	119
第五十一圖表	有價證券價格	116
第五十二圖表	有價證券價格及卸賣物價	116
第五十三圖表	卸賣物價に比較せる有價證券價格	119
第五十四圖表	貯蓄預金預金超過	113
第五十五圖表	貯蓄預金合計	116
第五十六圖表	生産指數及積載貨車數	113
第五十七圖表	フィッシャー交換方程式	115
第五十八圖表	M及P(對數目盛)	113
第五十九圖表	\bar{V} 及C	111
第六十圖表	フィッシャー交換方程式	116
第六十一圖表	フィッシャーの物價及び \bar{V} 及Cの導函數	116
第六十二圖表	ケインズの貨幣方程式	115
第六十三圖表	物價の一次導函數K及びK'	113

昭和十五年十月十日印刷
昭和十五年十月十五日發行

インフレーションの統計的研究
定價六圓



代表者 大原社會問題研究所
高野岩三郎

發行者 東京市神田區神保町一ノ三九
栗田 確也

印刷者 東京市牛込區改代町二四
田中末吉

(刷印所刷印社想唯)

發行所

東京市神田區神保町一ノ三九
振替東京一三三四番
電話神田〇代表二二六一(5)

栗田書店

KZ 4N-26

栗田書店刊行の好評書目

大原社会問題研究所編
獨逸社会政策と労働戦線
菊判三六四頁 價三・五〇 送・二二

問題のドイツに於ける社会政策と、それを實踐する労働戦線本部が如何なる實踐活動をなすかあるかを明瞭にした好著として有名である。

大原社会問題研究所編
ナチス獨逸の經濟的發展
菊判一八〇頁 價二・三〇 送・二二

國民社会黨下になつてからのドイツは一擧手一投足すべて世界の問題となつてゐるが、如何なる労働事情と經濟事情とを背景とするかを解剖したものである。

大原社会問題研究所 権田保之助著
労働奉仕制の意義及業績
四六判二四〇頁 價一・七〇 送・一六

労働奉仕制は今や世界各國に實踐されてゐるが、事變下日本にも實踐されて都市農村を問はず業績顯著である。本書はけだし各國と比較考量する好資料である。

外村史郎編

増補 ロシア語辭典
三六判三三〇頁 價二・五〇 送・一六

語數多く、値段廉く、携帯に至便である本書は、ロシア語研究家に好評を以て迎へられ、好意ある意見によつて改訂増補し、こゝに第三増刷を世に送る。

千葉龜雄編 栗田書店編輯部新訂
新聞語辭典
四六判五三〇頁 價二・五〇 送・二二

新聞語の正確な理解がなければ、今日の世界事情を正しく把握することは出来ない。本書は時代に應じて新訂改訂し新装して世に送つたものである。

文學アカデミア註釋 八住利雄譯

トルストイ最後の日記
規格判五一〇頁 價二・八〇 送・二二

トルストイの最後の日常生活、思想生活を知る唯一の資料である本書は、モスクワの文學アカデミアから出たものによる直接譯で日本翻譯権を有する唯一の書。

ゲ・カズロフ編 米村正一譯
貨幣と信用資本主義篇
菊判四四四頁 價三・五〇 送・二二

正しい貨幣理論を把握しなければ、今日の經濟事情は理解出来ない。本書はこれに對して太陽の様な照明を與へる好研究として世に迎へられてゐるものである。

ハウゼンスタイン著 阪本勝譯
裸體藝術社會史
菊判三〇八頁 價四・五〇 送・二二

特アト別劇裸體名畫三十五葉入 本書は「あらゆる時代及び民族の藝術にあらはれた裸體人」といふ原名、藝術の唯物史觀的研究書中の白眉として好評あり。

終